

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 12 No.22 2010年11月30日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2010 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

映像システム、ポリコム Polycom ATX 認定販売代理店に、40年のAVシステムの経験とノウハウを提供

株式会社映像システム(東京都文京区)は、4月5日より、ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)の「Polycom ATX 認定販売代理店」としてテレプレゼンスのシステム構築と販売を展開。

この Polycom ATX 販売代理店の認定を受けると、ポリコムのテレプレゼンスシステム Polycom ATX の提案から設計、設置、そして導入トレーニング、保守・メンテナンスまで一貫したサービスを提供することができる。



映像システム ショールームに展示している Polycom ATX 300(映像システム資料)

「テレプレゼンスシステムは、場所やコミュニケーションの制限をなくす究極のソリューションだ。システム構築には高度な専門性とスキル、ノウハウが要求される。そのため、ATX や RPX、OTX のテレプレゼンス販売については認定制度にしている。」(ポリコムジャパン)

映像システムは、昭和46年に日本でも数少ない映像と音響を専門としたシステムインテグレーターとして創業し、以来約40年間、企業のみならず学校や地方自治体など幅広いユーザーへ、テレビ会議も含めたAVマルチメディアシステム

の構築に携わってきた。大阪、京都、福岡に支社を持ち、2002年3月には、ISO9001:2000認証も取得(東京本社・大阪営業所・福岡営業所)している。そういったAVマルチメディアシステムへの実績とノウハウから、国内初の Polycom ATX 認定販売代理店としても展開する。ポリコムには、すでに「Polycom RPX」や「Polycom OTX」のテレプレゼンスシステムを提供しているが、これらは、パッケージ型のテレプレゼンス。つまり、コーデック、カメラ、マイク、スピーカの他、テーブルや椅子などの什器や内装、照明まで一括したパッケージとして提供するもの。

それに対して、Polycom ATX 300 は、インテグレーション型のテレプレゼンスで、コーデック(1080p 対応 HDX シリーズ、3台)やカメラ(EagleEye、3台)、シーリングマイク(3個)、コントロール用ソフト、VNOC サービス(オプション)などの基本セットは、ポリコムから提供される。

それに対して、Polycom ATX 300 は、インテグレーション型のテレプレゼンスで、コーデック(1080p 対応 HDX シリーズ、3台)やカメラ(EagleEye、3台)、シーリングマイク(3個)、コントロール用ソフト、VNOC サービス(オプション)などの基本セットは、ポリコムから提供される。

シーリングマイク (映像システム資料)

ディスプレイやスピーカ、タッチパネル、什器、内装、照明などについては、別に用意する形になる。一定の条件はあるものの、ユーザの要件に合わせて選択することができ、既存の設備のものを利用することも可能になる。

従って、Polycom RPX や Polycom OTX は、パッケージ化されているため、ユーザから見ると、カスタマイズの余地があまりない。しかし、Polycom ATX は、基本セット以外は、ユーザのニーズや予算に応じて柔軟に組み合わせることができる点が特長だ。

「日本市場の場合は、ニーズが多様。その点 ATX はカスタマイズの自由度が高いため、RPX や OTX よりも幅広

いニーズに対応できると考えている。」(プリンストンテクノロジー)

例えば、テレプレゼンスの機能以外に通常のテレビ会議やプレゼンテーション機能等、通常の AV 会議室の機能を付加することもできる。

ATX の導入における設計・構築のポイントについては、いくつかあると映像システムでは説明する。まずテレプレゼンス環境のためには、ディスプレイ、カメラ、テーブルの相互の位置関係、「Polycom Siren 22」および「Polycom StereoSurround」による卓越した音声品質を生かした音響システムを考慮した設計を行っていく。また、会議に集中でき、臨場感あふれる環境にするために、マイクの配置や照明、背景色等も検討することが望ましい。この点シーリングマイクは、天井から吊り下げ型のため、テレプレゼンスでの会議を行っている間は、天井を見あげない限りは、視界にはいってこない。



10月に開催された日経BP社ITpro EXPO 2010 プリンストンテクノロジーのブースに展示された Polycom ATX 300 (プリンストンテクノロジー資料)

「テレプレゼンスでは、あたかもディスプレイの向こう側が会議室の延長であるかのような環境を構築する。それに対して、過去40年間のAVマルチメディアシステムの実績を踏まえて、総合的に設計・構築できるのが当社の強みであると考えている。」(映像システム)

加えて、テレプレゼンスシステムを構築する上で、ユーザーの操作環境は大切な考慮点のひとつ。その鍵になるタッチパネルについては、工夫がいるという。タッチパネルでは、

ATX の操作が行えるとともに、要望に応じて、周辺装置や照明などの ON/OFF などの機能も作り込むことが可能だ。しかし、この操作性が悪いとユーザのシステム利用に対するモチベーションにも影響を与える。

そのため、映像システムでは、タッチパネルについて、ユーザーニーズに応じた GUI(グラフィカル ユーザー インターフェイス)の作り込みもおこなっている。同社は、タッチパネルで有名なクレストロン社や AMX 社の認定を受けており、タッチパネル市場において、日本では草分け的な存在で評判は高いようだ。

タッチパネルの設計で重要なことは、誰がどのような会議運営を行うかのヒアリングを十分に行うことが必要と同社ではアドバイスする。使う人の使い勝手に合わせて、複数のモードに対応することも可能だ。なお、タッチパネルハードウェアは、要望に応じて、5.2 インチのものから 22 インチのものまで用意できるという。

「タッチパネルは、日常の操作をイメージして、必要な機能を選択し、GUI の作り込みを決めたほうがよいと考える。」(映像システム)

映像システムでは、今年 11 月下旬、社内ショールームに Polycom ATX 300 の 2 台目を設置する予定をしている。「近いうちに ATX 300 同士の対向でのデモも行えるようになる。その際には、導入の検討に是非デモをご覧頂きたい。末永く使って頂けるシステムを提供させていただきたいと考えている。」(映像システム)

また、Polycom ATX 300 に追加して、2010 年 11 月中に、「Polycom ATX 200」や「Polycom ATX 400」の販売も開始する。違いは、基本的に、ユーデッキやカメラ、マイクなどの数となっている。

ラドビジョンジャパン、「SCOPIA Elite MCU」 「SCOPIA デスクトップ」、「iVIEW SCOPIA 管理ツール」の新バージョン「SCOPIA V7.5」 を発表

ラドビジョンジャパン株式会社(東京都台東区)は、同

社の「SCOPIA Elite MCU(スコーピアエリート MCU)」、
「SCOPIA デスクトップ」、「iVIEW SCOPIA 管理ツール(アイ
ビュー スコーピア)」の機能を大幅に向上させる「SCOPIA
V7.5」のリリースを発表した。(10月19日)

主な拡張機能は以下の通り。

(1)テレプレゼンス相互接続性。今回のバージョンにより、
SCOPIA Elite MCU は、シスコ、ロジテック/ライフサイズ、ポ
リコム、タンバークなど各社のテレプレゼンスシステムとオー
プンに相互接続する。従来のテレビ会議システムに参加し
ているユーザは、テレプレゼンスシステムから送信される複
数のビデオストリームがひとつのパノラマ画像に合成された
特別なレイアウトでテレプレゼンスの参加者を見ることができ
る。つまり、この機能によって、同一ベンダーの中でしか使え
ないテレプレゼンスシステムに囚われる必要がないという。

(2)データ共有機能の向上。H.239 のデータ(資料)共有
において、会議に途中から入ってもその前に既に表示され
ていたデータに戻ることができる機能を提供する。この機能
によって、万が一会議に遅れてもデータ内容についてキャッ
チアップできるとともに、あるいは、もう一度戻って見直すこと
ができる。しかもその間、会議の進行を妨げたり、他の参加
者の邪魔をしったりすることはない。

(3)ユニファイドコミュニケーション機能の強化。IBM の
「Lotus Sametime」との完全な統合により包括的ユニファイド
コミュニケーションをさらに強化した。Sametime ユーザは、
Sametime クライアントに別途インストールすることなく HD に
よる複数拠点のテレビ会議を行うことが可能。これにより、携
帯電話や固定電話に加え、テレプレゼンスやテレビ会議専
用端末、デスクトップとの接続が Sametime から直接行えるよ
うになった。

(4)テレビ会議アドレスブックの統合。iVIEW SCOPIA 管理
ツールを使うことによって、異なったメーカーのテレビ会議の
アドレスブックを、「IBM Lotus Domino」、あるいは、「Microsoft
Active Directory」に、単一のエントリーポイントとしてまとめ
て管理したり更新したりすることができる。この機能は、ラド
ビジョン、ロジテック/ライフサイズ、ポリコム、ソニーおよびタン

バーク社製のほとんどの端末(エンドポイント)に対応して
いる。

(5)ネットワークエラー処理の改善。高いネットワークエ
ラー耐性に特長がある H.264/SVC に、「NetSense(ネット
センス)」を追加した。NetSense は、予測技術によって、パ
ケットロスが通信品質に影響を与える前に帯域を自動的
に低下させ適応する機能。リード・ソロモンエラー訂正技
術によりエラー処理を行い、ネットワークが改善すれば元
の帯域に自動的に戻す。H.264/SVC と Netsense を組み
合わせることで最良の品質を実現するという。

コクヨエンジニアリング&テクノロジー、マス キングサウンドを利用した音漏れ対策対応テ レビ会議環境の提案を開始

コクヨエンジニアリング&テクノロジー株式会社(東京都
品川区)は、音漏れに配慮したテレビ会議環境の提案を
11月1日から開始。(11月19日)



サウンドマスキ
ングパーテーシ
ョン
(コクヨエンジ
ニアリング&テク
ノロジー資料)

具体的には、
内部に組み込ん
だスピーカからマ
スキングサウンド
を発生させるパー
テーション「サウ
ンドマスキングパー

テーション」に、コクヨ S&T 株式会社(大阪市東成区)のフ
ルハイビジョン対応テレビ会議システム「meetimaXVD コミ
ュニケーションシステム」を組み合わせることで音漏れ対
策を施した打合せブースを構築する。

コクヨエンジニアリング&テクノロジーによると、一定の大
きさの音が継続して聞こえている状況下では、人間の耳
は感度が下がって、より小さな音が聞こえなくなる特性が

あるという。

そこで、このサウンドマスキングパーテーションは、この特性を利用し、パーテーション内部から空調音に類似した背景音を継続的に発生させることで、会話音の到達範囲を小さくして漏れにくくするとともに、周囲の会話や騒音なども聞き取りにくくする。これにより、オフィスにおいて集中しておこなう執務や作業に最適な音環境を構築することができると同社では説明する。

販売価格は、360 万円(消費税別)から。年間販売目標は、1 億円(2011 年度)。

MeetimaXVD コミュニケーションシステムは、2009 年 10 月から製造販売しているフルハイビジョン対応テレビ会議システム。映像高圧縮技術 XVD によって、1Mbps の通信帯域でフルハイビジョン(1,920 x 1,080 画素)映像を伝送できるため、一般光インターネット回線でも運用できるのが特長という。圧縮技術は、米国 XVD Technology Holdings 社の技術を採用。メーカー希望小売価格(消費税込)は、meetimaXVD コミュニケーションボックスが、126 万円。フルハイビジョン対応カメラやフルハイビジョン対応ディスプレイ、音響機器を含む推奨構成の参考価格は、1 拠点で約 190 万円。2010 年 11 月から 2011 年 10 月の売上目標は、5 億円。

*関連記事(meetimaXVD コミュニケーションシステム):2009 年 8 月 15 日号、2009 年 10 月 15 日号

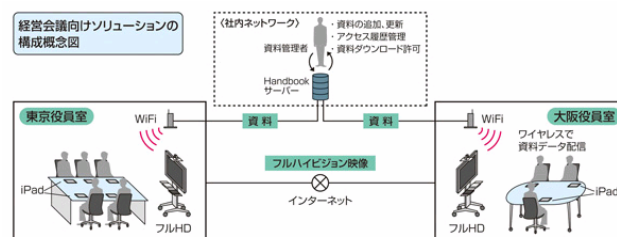
コクヨ S&T、iPad とテレビ会議を組み合わせたソリューションを発表

コクヨ S&T 株式会社(大阪市東成区)は、12 月 1 日からインフォテリア株式会社(東京都品川区)と、販売連携し、経営会議向けソリューションをユーザ企業へ提案することを発表した。(10 月 19 日)

この経営会議向けソリューションは、コクヨ S&T のハイビジョン(1,920 x 1,080 画素)対応「meetima XVD コミュニケーションシステム」と、インフォテリアが提供する iPad を利用した「Handbook」シリーズの企業内利用向け「Handbook HD グループ版」を組み合わせ実現する。

この Handbook シリーズは、iPhone、iPod、iPod touch 用のコンテンツを作成・配信・閲覧できる統合サービス。

Handbook HD グループ版は、動画や PDF、「Microsoft Excel」、「Microsoft PowerPoint」ファイルなどを作成したコンテンツを特定ユーザのみに公開できるため、企業や教育機関で社員や学生に限定してコンテンツ配信するのに適しているという。



システム構成 (コクヨ S&T 資料)

今回の経営会議向けソリューションでは、サーバ導入するモデルを推奨する。利用者が iPad を使って自ら最新資料をサーバから引き出すため、管理者側の配信・通知などの業務負担を軽減できるとともに、一元管理によるセキュリティの向上も期待できるという。加えて、紙を出力しないことから会議のペーパーレス化促進にも役立つと社ではメリットを説明する。

フルハイビジョンでのテレビ会議には、meetima XVD コミュニケーションシステムを使用し、一方、資料共有には、Handbook で提供する iPad での資料閲覧を行うが、資料の拡大や縮小も行えるため、細かい数値やデータも思いのまま閲覧できるという。その上、Handbook 上のファイル更新で配信できるため直前まで資料の追加、差し替えが可能となっている。過去の会議資料等を Handbook からすぐ参照することもできる。

セキュリティについては、各資料へのアクセス履歴管理やダウンロード許可の設定が可能。また、iPad 上での閲覧に限られているため、資料情報の管理リスクを低減できる。

コクヨ S&T は、今回の販売連携で、meetimaXVD コミュニケーションシステムを検討するユーザに対して Handbook の提案販売を行い、インフォテリアは、

Handbook サービスのライセンスサーバ導入及び運用支援を行う。さらには、今後、両社のノウハウの融合をさらに進めることで、iPadに限らずアンドロイドなどの多機能情報端末を活用した新たなソリューション開発を展開していく予定という。

ニューロネットのWeb会議新バージョン、リモートデスクトップなど機能強化

ニューロネット株式会社(東京都渋谷区)は、従来提供してきた機能に加え、今回新たに、リモートデスクトップ、録画、高速画面共有などの機能を搭載した「SaaSBoard Ver.2.41」の提供を開始した。(10月28日)

リモートデスクトップ機能や高速画面共有については、たとえば、コンピュータトラブルや操作方法が分からずに困っている顧客をサポートする目的で活用することができるという。従来は、電話で対応してきた。顧客の電話の声だけでは、どうゆう画面を見ているのか、どういう問題をかかえているのかを的確に把握することが難しかった。また、その問題を把握できたとしても、顧客に問題解決のための操作をおこなってもらうのに難しい場合もある。SaaSBoard Ver.2.41を使うことで、顧客のパソコンの画面を共有することができ、それにより、サポートスタッフが自席から目で確認し、遠隔で操作できるようになる利点がある。

一方、録画機能については、文字や文章などを記録するだけでなく、映像と音声で記録する点が特長。たとえば、商品説明の会議を録画すれば、その動画は、商品講習会用として使用することができる。この録画機能を今回搭載することで、SaaSBoardの利用範囲も広がるという。

ニューロネットは、今回の機能強化によって、カスタマーサポートセンターや教育市場にも販売を強化していく考えだ。

NRI ネットワークコミュニケーションズ、iPadを利用した会議システムの提供を開始

NRI ネットワークコミュニケーションズ株式会社(大阪市区、株式会社野村総合研究所グループ会社)は、アップル

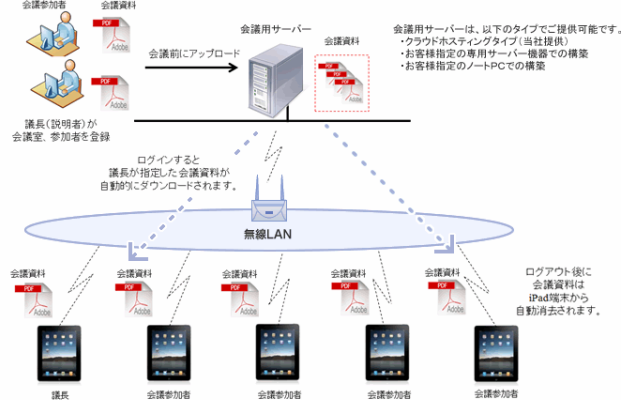
社のモバイル端末 iPad を使用した資料閲覧システムを11月1日より提供開始すると発表。(10月19日)

このシステムは、会議の主催者(議長)によって、参加を認められた参加者が、会議室にiPad経由でログインする。そうすると、各参加者のiPadには、会議用資料が同時に表示され、議長の議事進行に沿って、議長のiPad画面と同じページが表示される。

iPadでの無線LANが可能なエリアであれば、遠隔地でも同時に資料を閲覧できるため、既存の音声会議システムやテレビ会議システムとの併用も可能だ。



ログイン(左上)、会議室一覧(中央上)、画面進行(右上)



(注) 会議に使用するiPadには、事前にApp Storeから無償提供ソフトをダウンロードしておく必要があります。

システム構成(上下、NRI ネットワークコミュニケーションズ資料)

会議中に資料を共有する際に、議事進行とは別に、共有された資料を参加者がそれぞれのペースで自由に閲覧することができる。ただ、会議参加者をID・パスワードで管理することができるため、参加者は許可された資料しか閲覧できないという方法や、参加者毎の閲覧制限をかけるという方法も可能だ。一方、会議資料は、サーバ上に保管するため、iPadに資料が残らない。従って、iPadを紛

失しても、情報漏えいの心配がないという。

今回発表されたシステムは、iPad 端末に加え、iPad アプリとサーバシステムで構成される。アプリは、AppStore において無料で入手できるという。サーバシステムは、3タイプでの提供が可能。(1)タイプA:クラウドホスティングタイプ(NRI ネットコムのサービスを利用)、(2)専用サーバタイプ(ユーザ企業内に設置)、(3)ノートPC タイプ(ユーザ企業内に設置)。

iPad 20 台で本システムを構成した場合の価格(税抜き)は、タイプAで導入費用が150万円(iPad 機器を含む)、月額費用が5万円。タイプBとタイプCは、240万円程度(iPad、サーバ機器含む)を予定。全タイプで、年間保守費が別途必要となる。

従来の会議システムは、会議室にディスプレイやスクリーンを設置する必要があるため、多額のシステム投資や会議場所が固定されるなどの制約があった。しかし、このシステムによって、従来の会議システムと比べ安価に導入することが可能になったと同社では説明する。

今後も iPad、iPhone をはじめとしたスマートフォンのビジネスを支援するシステムおよびサービスの開発を進めていくという。

ビジネス動向-国内

ネットワンシステムズ、シスコの TANDBERG ビデオ会議ソリューションを販売開始

ネットワンシステムズ株式会社(東京都品川区)は、シスコシステムズ合同会社(東京都港区)と販売代理店契約を締結。米シスコシステムズ社が昨年買収した旧タンバーク社より提供されているビデオ会議製品を11月11日より販売開始する。(11月11日)

ネットワンシステムズは、これまで、シスコ社製テレプレゼンスや Web 会議システムなどを中心にビデオ会議ソリューションを取り扱ってきた。

今回新たにタンバークラインナップをポートフォリオに追加することにより、HD 対応ビデオ会議端末、多地点接続装

置、ビデオカメラ内蔵 IP フォン、ビデオ電話対応 3G 携帯電話などの電話一体型のビデオ会議ソリューションの提供が可能となり、ビデオ会議ソリューションを強化する。

これにより、同社は、ビデオ会議システム製品単体での市場拡大だけでなく、さまざまな UC アプリケーションとの連携を展開することで、注力するユニファイドコラボレーション(UC)においてさらなる事業拡大を狙う考えだ。初年度の売上目標は、30 億円。

NTT ラーニングシステムズとアルク、オンライン英会話サービスリニューアル、NTT アイティ Web 会議を採用

NTT ラーニングシステムズ株式会社(東京都港区)と株式会社歩く(東京都杉並区)は、両社が運用するオンライン英会話サービス「バーチャル英会話教室」について、11月1日から大幅にリニューアルすると発表。(11月1日)

リニューアルの概要としては、以下の通り。(1)月額固定、事前予約不要の受講形式。インターネットで接続されたパソコンを通じて受講期間であれば何度も受講できる。(2)欧米ネイティブ講師で行う上級・中級・初級や、日本語を織り交ぜながら日本人講師が行う入門レッスンといった、レベルに合わせたきめ細かなレッスンが受講できる。またアルコムワールドを活用したカウンセリングサポートも提供する。(3)レッスンは、自分の分身となるイラストアバターでの受講となる。ただし、講師は、カメラ画像でのレッスンを行う。(4)NTT アイティ株式会社(神奈川県横浜市)の Web 会議システム「MeetingPlaza(ミーティングプラザ)」を採用。(5)レッスンテーマにあわせた仮想空間で自由に英会話練習ができるほか、英語のビデオを見て自分の発音チェックをおこなえる自習機能などさまざまなサービスを用意する。

11月1日から2011年1月31日までキャンペーン実施。入学金5,250円(税込)を無料。ヘッドセット先着300名無料プレゼント。授業料月額7,980円(税込み)。申込日より7日間は、お試しの無料体験期間。キャンペーン期間以

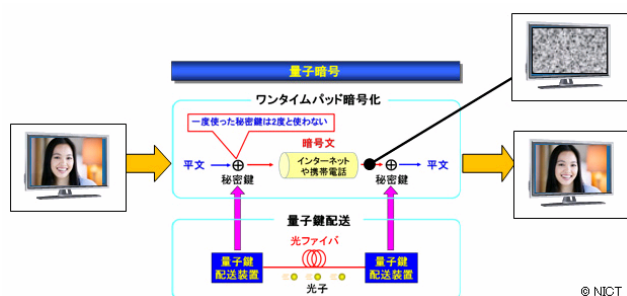
降は、入学金 5,250 円(税込み)、授業料月額 10,290 円(税込み)。ただし、キャンペーン期間中の申込の場合は、機関終了後も同じ 7,980 円で利用できる。

NICT ら、量子暗号ネットワークの試験運用開始、世界初の完全秘匿多地点テレビ会議を敷設光ファイバ網で実現

独立行政法人情報通信研究機構 量子 ICT グループ (NICT、東京都小金井市) は、NICT の委託機関である日本電気株式会社(東京都港区)、三菱電機株式会社(東京都千代田区)、日本電信電話株式会社(東京都千代田区)とともに、NICT のテストベッド JGN2plus 上に量子暗号ネットワークを構築し、試験運用を開始する。

この試験運用では、都市圏の敷設光ファイバ網では、量子暗号を使った世界最初となる盗聴不可能な多地点テレビ会議システムを構築し、安定動作の確認や、盗聴攻撃の検知実験、経路制御等の試験などを行う。

量子暗号は、理論上どのような技術でも盗聴できない究極の暗号技術で、量子鍵配送装置を設置した拠点間で、秘密鍵を共有し、送りたい情報をワнтаイムパッドにより暗号化する方式となっている。



量子暗号における操作の概要 (NICT 資料)



東京量子鍵配送ネットワーク構成図 (NICT 資料)

今回は、NICT、NEC、三菱電機、そして NTT の 4 ヶ所に量子鍵配送装置を設置し、10km から 90km までの複数の回線パターンからなる量子暗号ネットワークを構築し試験を実施する。秘密鍵の生成速度は、45km の光ファイバ回線で毎秒約 10 万ビットと、実環境では世界最速となるという。

これまでのアメリカ国防省や欧州連合のプロジェクトでは、音声データの暗号化が限界で、伝送距離も敷設光ファイバで数 10km 程度が限度だった。それに対して、日本では、2001 年から NICT の産官学連携プロジェクトにより、都市圏で完全秘匿なテレビ会議が実現できる世界最速の量子鍵配送技術の研究開発に取り組んできた。今回の試験運用では、今後の国際標準化をにらんで、東芝株式会社と欧州の研究機関も参加する。

NICT によると、今回の試験運用を通じて装置の改良を進めるとともに、まずは国家レベルの機密通信、次に電力・ガス・水道網などの重要インフラの通信保護や金融機関の秘匿通信等への適用を目指す。さらには、高速化・長距離か可能な次世代量子暗号技術及び現代暗号との統合運用技術の研究開発を進め、最終的には、セキュリティサービスにつながるセキュアネットワーク技術の研究開発に取り組んでいくという。

ビジネス動向-海外

アバイアとスカイプ、共同マーケティングを含め両社ソリューションの連携に関する戦略的合意を発表

スカイプ社の発表によると、同社とアバイア社は、戦略的な合意に達したと発表。(10月29日)

戦略的な合意の柱には、2つある。ひとつは、両社による Go-to-market 戦略による共同マーケティングの実施、そして、もうひとつは、両社のテクノロジーをインテグレーションするというもので、いくつかの両社による取り組みが予定されている。

第一フェーズとしての取り組みは、北米のアバイアユー

が企業にある SIP 対応の PBX などが Skype に接続できるようにするスカイプ社のサービス、「SkypeConnect」を利用できるようにするもの。これにより、アバイアの「Aura Session Manager」、「Aura SIP Enablement Sever」、「CS1000」、「Avaya IP Office」、「BCM」を所有するアバイアユーザは、Skype の低コスト通話サービスを利用することができる。もちろん、セキュリティ、トラッキング、レコーディング、コンプライアンスなどの各種機能は、アバイアのシステムから提供されることになる。

また逆に、Skype ユーザが、北米のアバイアユーザへ無料もしくは、低コストで通話を行うことも可能になる。加えて、Web に通話機能を埋め込むことができる「Click & Call ボタン」、固定電話や携帯電話からの着信用の「Skype Online Numbers」、企業の内線電話への Skype からの通話などの機能も提供される。

一方、2011 年後半を予定している第二フェーズでは、北米市場向けの、アバイア社の「Avaya Aura」と、Skype 間のフェデレーション(連携)を計画している。つまり、両者のそれぞれのソリューション間で、プレゼンス、インスタントメッセージング、音声、ビデオを統合するということだ。これによって、Skype からアバイアの「Avaya Contact Center」へ通話したりすることができるようになる他、システム管理者が、一元的に、相互間の通話の管理やコントロールをすることも可能になる。

スカイプ社にとって今回の戦略的な合意についてコメントを出している。アバイアユーザが費用の削減や Skype ユーザへのアクセスを得られるというメリットだけでなく、スカイプ社にとっても、北米エンタープライズ市場における足場固めの端緒になると見ている。

イベントレポート

シード・プランニング、Web 会議をテーマとしたセミナー・展示会を実施、14 社出展

株式会社シード・プランニング(東京都台東区)は、11月12日東京都内「TEPIA」(テピア)にて、「コラボレーション時

代の Web 会議フォーラム」を開催した。

このイベントでは、Web 会議システムに焦点を絞ったセミナーやパネルディスカッション、また各 Web 会議ベンダーによる展示会が 14 社の出展のもとに行われた。展示では、各社の最新の Web 会議システムの紹介やデモが行われた。

「Web 会議は急速に注目されつつある。そういった中、Web 会議の活用法や、iPad 連携など新しいトレンド、さらには、今後の映像コミュニケーションの方向性に関する情報を提供する場が必要だと考え、今回、実機デモも体験できる機会も交え催しを実施することとした。」(シード・プランニング)



セミナー講演会場

講演では、Web 会議の経営における可能性の他、市場動向や北米での活用事例、また、各 Web 会議ベンダーの発表、そして最後には、映像コミュニケーションの今後の可能性や方向性を議論したパネルディスカッションも行われた。

まず、最初に特別講演として、日本大学商学部大学院商学研究科教授 児玉充氏が、企業が経営の中でイノベーションを起こしていく際に、Web 会議がどのように活用できるかという観点から最新の経営理論を紹介。

企業では、必要な社員の形式知と暗黙知を効率よく相互作用(コラボレーション)させることが出来るイノベーションコミュニティ(IC)の構築が必要で、その中で、映像コミュ

ニケーションが、企業経営における重要なコラボレーションツールになっていくだろうという見方を、児玉氏は示した。その実践成功例のひとつとして、米国企業の例を引き合いに出してネットコラボレーション組織が 21 世紀の組織のあり方であると提唱した。

次に、北米の Web 会議システム活用事例として、1981 年から遠隔会議市場のアナリスト&コンサルタントを行ってきた、テレスパンパブリッシング(TeleSpan Publishing Corp.)のエリオットゴールド(Elliot Gold)氏が Web 会議システム(ブイキューブのシステムを使用)を使いロサンゼルスから遠隔講演し、ゴールド氏の画面は、会場前面のスクリーンに投影され、Q&A では北米の市場に興味を持つ来場者の質問もあった。

同氏は、NPO 法人やホテル業界、保険、医療、プレス配信など、コミュニケーションやウェビナー(オンラインセミナー)目的の多数の先進事例を紹介した。

また北米での市場規模は、14 億ドル(2010 年)規模へ拡大と予想し、その急速な市場拡大の背景には、電話会議やテレビ会議と違い、資料共有機能が簡単に使えるといった点が注目されていると分析。加えて、スマートフォンの活用も見られるようになったと北米の最新情報も提供。

ゴールド氏の次は、シード・プランニング 主任研究員 原健二氏が日本の Web 会議市場の動向について発表。冒頭、原氏は、検索エンジンでの遠隔会議関連の検索数が増えていることを一例に挙げ、遠隔会議関連の注目が今後増すと期待感を見せた。

現在、国内では、Web 会議、テレビ会議(専用端末)、電話会議を合わせて約 80 社の企業が事業展開しているという。その中で Web 会議市場(2009 年)は、約 40 億円規模となり、システムの利便性などから今後市場が大きく拡大すると予想する。2002 年頃くらいまでは、テレビ会議の導入が多数を占めていたが、2007 年以降ユーザトレンドの傾向として、Web 会議の導入が逆に増加してきた状況をその理由のひとつとして挙げる。

加えて、今後、映像コミュニケーションは、会議にとどまら

ず、ロボットやデジタルサイネージなどの各方面とも連携をしていく兆候を見せており、可能性が今後も広がっていくだろうとの見方を示し、講演を締めくくった。

この後、14 社による各社製品の概要や特徴を説明したプレゼンテーション(各社 10 分程度)が続いた。Web 会議は、映像や音声の品質や、誰でも簡単に使えることという点、そして、導入形態によっては、オフバランス化や初期投資の抑制を実現することができるという点で、従来よりも進化してきたようだ。



展示会場

他方、スマートフォンなどデバイスの多様化やクラウド化への波、または、ユニファイドコミュニケーションやグループウェア、テレビ会議専用端末と Web 会議連携などへの動きが、今後の注目点ではないかと指摘するベンダーもあった。さらには、社内利用事例や簡易生中継としての活用事例についての紹介もあった。

14 社のベンダー講演が終了するとともに、ユーザとベンダーを交えたパネルディスカッションがセミナーの最後として行われた。先ほどの日本大学児玉充氏がモデレーターで登壇。一方、パネリストには、ベンダーからは、ニューロネット株式会社 代表取締役 前川博文氏、株式会社ブイキューブ 代表取締役社長 間下尚晃氏、また、ユーザ代表としては、ライド株式会社 代表取締役 中野浩也氏、そして、今回の主催者である、株式会社シード・プランニング 原 健二氏が参加し、映像コミュニケーションをめぐる、現状と今後の可能性について議論を交わした。

30分という短い時間ではあったが、さまざまな意見が出された。全体的には、Web会議は、コストダウンなどを通して業務用ツールとして普及してきたが、今後は、ビジネスだけでなく、教育やサポートなどの面へと用途が広がってきたといった認識でパネリストは一致した。

また、今後のテレビ会議(専用端末)とWeb会議の関係としては、テレビ会議は、臨場感を実現するテレプレゼンスシステムとして、一方で、Web会議については、モビリティやデータ会議に強いシステムとして棲み分けされ、それぞれ発展していくのではないかという見方や、他のコラボレーションツールと連携して発展していくのではないかという意見もあった。加えて、携帯電話のような形態にも進化するのではないかという考えも出た。

さらには、コンシューマーを含めた映像の可能性についての言及もあった。企業での利用の増加は波及効果をもたらす家庭へも広がるきっかけになるだろうという見方や、Web会議を使った遠隔パーティの事例、ゲームとビデオチャットの組み合わせの例などがパネリストから紹介された。



パネルディスカッション

パネルディスカッションの最後では、映像ブレイクを起こすためには、何が必要かと児玉氏から問題提起され、やはり、使っている人が面白い、楽しいとすることができるクライアントアプリやコンテンツの開発が急務だとパネリストの意見がまとまった。

シード・プランニングとして、遠隔会議に焦点をあてた催しを実施するのは、今回が初めてだ。実は、一度に14社のブ

レゼンを聴講できる機会は一般的に少ない。そのため、来場者だけでなく、出展社にとっても、今回は、よい機会だったようだ。

シード・プランニングとしては、「今後も遠隔会議市場の発展と共にこういったイベントの機会があれば実施していきたい。」という考えだ。

「コラボレーション時代のWeb会議フォーラム」 ビジネスの発展とマネジメントのための「Web会議」 活用とは？

日時:2010年11月12日(金)

展示:11:30~18:30

講演/パネルディスカッション:13:00~17:50

会場:TEPIAホール

主催:株式会社シード・プランニング

出展企業:(あいうえお順)

エイネット株式会社
 沖電気ネットワークインテグレーション株式会社
 木村情報技術株式会社
 ジャパンメディアシステム株式会社
 スリーエー株式会社
 日本アイ・ビー・エム株式会社
 ニューロネット株式会社
 パイオニアソリューションズ株式会社
 パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社
 株式会社日立製作所
 株式会社 Visual Link Laboratory
 Vidyo Inc.
 株式会社ブイキューブ
 ヤマハ株式会社

(次のページへ続く)

セミナー・展示会情報

< 国内 >

会議の効率化を実現！『ConforMeeting 無料体験セミナー』定期開催

日程：12月1日(水)、8日(水)、15日(水)、22日(水)

※全ての日程で13:30～14:30、15:30～16:30の2回開催

会場：NEC 情報システムズ 本社(東京都港区)

主催：NEC、NEC 情報システムズ

詳細・申込：

<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

テレビ会議システム 新製品発表セミナー
Compunetix 社・LifeSize 社製品の提案

日時：12月3日(金)15:00～17:00 (受付:14:30～)

会場：日立ハイテクノロジー 関西支店(大阪市)

主催：株式会社日立ハイテクノロジー

詳細・申込：

<http://www.hitachi-hitec.com/jyouhou/hitec-vision/seminar/20101203.html>

ビデオ会議活用でコスト削減！事例紹介&実感セミナー
～導入しても使われないビデオ会議システム その意外な理由とは？～

日時：12月7日(火)15:00～17:00(受付:14:30)

パナソニック電工インフォメーションシステムズセミナールーム(大阪市)

主催：パナソニック電工インフォメーションシステムズ株式会社

共催：福西電機株式会社 シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：

<https://event.panasonic-denkois.co.jp/public/seminar/view/133>

NetOneSystems & CiscoSystems タンバーグセミナー

日時：12月7日(火) 14:30～17:20

会場：シスコシステムズ名古屋オフィス(愛知県)

主催：ネットワンシステムズ株式会社

協賛：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：

http://www.netone.co.jp/seminar/tandberg_seminar_nagoya.html

実践！ビジュアルコミュニケーションの最新活用セミナー
～テレビ会議の機器選定から構築運用まで最新の導入成功事例をご紹介～

日時：12月8日(水) 13:30～17:15 (開場 13:10)

会場：VTVジャパン本社・大阪オフィス内 会議室(2元中継)

主催：VTV ジャパン株式会社

詳細・内容：<http://www.vtv.co.jp/seminar/1012vtv/index.html>

*CNAレポート・ジャパンの橋本は、11月18日の同社セミナーでの講演に引き続き、12月8日も講演させていただくことになりました。よろしければご参加いただければ幸いです。

テレビ会議を活用した「出張管理・コスト削減」セミナー

日時：12月9日(木) 13:30～(開場 13:00)

会場：ネット・カンファレンス 東京・大阪・名古屋

主催：ネット・カンファレンス株式会社

共催：株式会社JTB中部

詳細・申込：http://www.net-conference.jp/seminar_jtb_2010_12/

Web会議/Webコラボレーション SaaSBaord 無料セミナー
劇的経費削減をもたらす Web 会議選びのポイント

日時：12月22日(水)13:30～17:00(開場/受付開始:13:00)

場所：渋谷区商工会館 2F セミナー室 (東京都渋谷区)

主催：ニューロネット株式会社

詳細・申込：

http://www.neuronet.co.jp/eventSeminar.html#sb_seminar2

< 海外 >

The WR Visual Communications Summit

Bringing Suppliers, End Users, Channel Partners, & Service Providers together in an interactive forum on

Driving Business Transformation with Visual Communications Solutions

日時：2011年1月31日～2月1日

会場：Integrated Systems Europe - Amsterdam と同会場

主催：Wainhouse Research, LLC

詳細・内容：

<http://www.wainhouse.com/events.php?sec=34&opt=upcoming&event=395>

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

12月8日、VTVジャパン主催によるセミナーにて講演させていただくことになりました。セミナーは、東京と大阪の2元中継で行われます。もしよろしければご参加いただければ有り難いです。

今年の最終発行号は、例年と同じ12月15日号です。12月31日号はお休みをさせていただきますので、来年は、1月15日号からとなります。

今年は、5年ぶりに甲状腺機能亢進症を再発してしまいました。9月頭ぐらいから調子が悪く体重が3-4kg減少しましたので、「またか!」と思いつつ病院で血液検査をしましたところ、「再発です。」と診断されました。

それ以来、9月下旬から毎月1回血液検査と、一日6錠の薬を服用していますが、お陰様で最近、順調に甲状腺の各値は良くなりつつあり、体重も前の体重に戻ってきました。体調も普通です。来月からはたぶん錠剤の数を減らせるのではないかと期待しています。ただ、血液検査のために毎月、病院に行くのは大変ですが。

いずれにしても、ニュース発行などの業務には支障はありませんのでご心配なく。今後とも何卒宜しくお願い致します。

それでは、次号もよろしくお願い致します。(橋本)